

## ミュージアムレターVol.28を発行しました。

発行物（定期刊行物）

投稿者：：

Posted on : 2018-4-14 10:10:00

富良野市博物館の広報紙「ミュージアムレター」の最新号vol.27を発行しました。本号では夏季特別展「シマフクロウの聲がきこえる。」の様子や、見学会「レトロ建築巡り」（山部編）の紹介、平成29年度の事業報告を掲載しました。どうぞ一読ください。

下記のリンクをクリックし、閲覧してください。

文化会館など市内の公共施設などにも今後配架しますので、どうぞお手に取ってごらんください。

**Vol. 28**  
2018. Apr.

**Museum Letter**  
Furano Museum  
富良野市博物館

**ミュージアムレター**

○特別展「シマフクロウの聲がきこえる。」  
○見学会「魅力再発見！レトロ建築めぐり」

第32回博物館特別展  
**シマフクロウの聲がきこえる。**  
2018.4.24開幕

食物連鎖を表すピラミッド型の図を見たことがありますか？この図の頂点にいる生き物（高次消費者）は、体が大きく、強いイメージがありますが、実際には下の層層にいる生き物たちのおかげで生きていける生き物で、弱ちかけて多くありません。本展のテーマである天然記念物シマフクロウもまぎれもない高次消費者の猛禽類ですが、「一つの森に一つがいしかいない」といわれるほど、広い森の資源という支えがあって生を待っている生き物です。



展示解説する田中氏（左）

今回展示した写真は26年にわたりシマフクロウを撮影してきた田中博士の作品です。かつてヤマセミを撮影しようとした夜の中で出会ったシマフクロウに魅せられた田中さんは、まずは撮影することなくシマフクロウを観察し、その生態を学ぶことに1年以上を費やしたといいます。その経験を土台に、シマフクロウに与えるストレスを減らすことを一番に考えながらも、野生のままの生き生きした姿を撮影できるようにしました。

本展の主たる展示は彼らの生態を伝える25枚

○ワークショップ「アートを楽しもう1」  
○出来事録 ～平成29年度事業報告～

の大型写真で、捕食したり、枝の上にたたまると、様々な姿を承しめるように展示室の3面の壁に配置しました。残り1面の壁には目を広げたシマフクロウの原寸大の写真を展示し、多くの方が世界最大級と言われるその大きさに驚きながらシマフクロウとの記念撮影を楽しんでくれたようです。さらにシマフクロウが棲きかわす映像資料や、生態や分布を解説するパネルなどを展示しました。

9月2日には、展示室で写真を見ながら田中氏からシマフクロウの生態や生息状況、さらに撮影時の体験を紹介する講演会を開催し、26名の方に参加いただきました。皆さん熱心に聞き入り、講演の後も生態や撮影方法などについて連絡することなく質問が出され、時間を経過してしまうほどでした。

かつて国内に1000頭以上のシマフクロウでしたが、絶滅に押って生存に必要な森が減少した現在では150頭程度となっています。本展のような高次消費者を保全することは、生態地となる広大な森を守ることに繋がります。本展により、観覧された皆さんの心にシマフクロウだけでなく、様々な生き物のつながりから成り立っている自然環境全体の大切さを訴えることができたのではないかと思います。



講演中

